

リサーチセンター進捗状況報告書

センター名	安全安心地域共創リサーチセンター
センター長名	齊藤 大樹
設置の時期	平成 17 年 4 月 1 日
報告書作成日	平成 29 年 3 月 3 日

1. 設置の目的

安全で安心して暮らせる地域社会づくりのために、自然災害だけでなく環境や生活に関係する幅広いリスクを低減する研究・技術開発を行うとともに、行政機関・産業界・学協会・大学や高専・市民団体等と連携・協働して、地域防災力を押し上げ、広域災害に対して粘り強い地域を実現することを目的とする。

2. 設置後の研究成果

本センターは、東日本大震災の直後に設置されたことや、南海トラフ地震の発生により東三河地域に甚大な被害が懸念されることから、設置以来、地震リスクの軽減を主なテーマとして活動を続けてきた。本センターの運営にあたっては、センター長、副センター長、事業推進メンバー、本学研究支援課センター支援係、事務補佐員による毎月 1 回程度の頻度で定期的なミーティングを開催している。これまでの成果を以下にまとめる。

(1) 防災シンポジウムの開催

本センターが主催・共催したシンポジウムを以下に示す。いずれも東日本大震災を受けて地震・津波に対する防災や企業の事業継続等を中心テーマとしている。また、本センターが参画する東海圏減災研究コンソーシアムでは、ここに挙げる以外にも数多くのシンポジウム等のイベントを開催しており、本センターが協力している。

平成 23 年度

7月23日 「地域の防災・リスク管理を考える」

12月2日 「企業防災を軸とする安全安心な地域づくり」

平成 24 年度

5月13日 第9回表浜シンポジウム「渥美半島津波防災シンポジウム」

6月2日 講演会「津波防災の教育の実践 ～東日本大震災に学ぶ～」

7月8日 「海洋教育から考える"津波・防災 ～東南海地震に備えて～」

12月7日 「沿岸域における地震防災 ～津波浸水予測域におけるレジリエンスの向上～」

平成 25 年度

10月13日 「災害に学ぶ・災害を学ぶ」

12月12日 「南海トラフ巨大地震に備える ～東三河地区の防災力向上に向けて～」

平成 26 年度

12月9日 「防災・減災のための備えと行動 ～今、何ができるか～」

3月24日 「超高齢社会における生活リスクとその改善」

3月27日 「防災・減災へのセンシング技術の利用に関するシンポジウム」

平成 27 年度

12月8日 「防災・減災シンポジウム ～震災に学び、地域がつながる、未来につながる～」

平成 28 年度

12月8日 「熊本地震から学ぶ震災後の復興 ～生活レジリエンスと事業レジリエンス～」

(2) 防災分野における中核的人材の養成

平成25年度より文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業として、企業において災害時にリーダーとして活動できる人材の育成を目的とした研修事業を行ってきた。平成28年度には、「東三河地域の防災力向上のための地域連携強化による人材養成プログラム」が、本学の「社会人向け実践教育プログラム」の一つに選択された。

平成25年度

- 東三河地域の企業等へのアンケート調査によるニーズ把握
- 東三河地域の防災力向上に向けたシンポジウムの開催
- 「地域地震防災コース」の開設

平成26年度

- 「三河港湾防災・減災連絡会」の設置
- 「地域地震防災コース」の実施、BasicコースとAdvanceコース
- 防災シンポジウムの開催

平成27年度

- 「地域地震防災コース」の実施・e-ラーニングの導入
- 防災情報交流 Web サイト「つながる防災」の運用開始
- 「減災対策学習ユニット推進委員会」の設置
- 防災シンポジウムの開催

平成28年度

- 防災教育プログラム（メカニズム学習講座、実践力養成講座、地域課題探究ツアー）の開発
- 「東三河防災カレッジ」の実施
- 防災シンポジウムの開催

(3) 災害検知・防災情報共有システムの開発と実装

平成27年度には文部科学省特別経費「センシング技術を基盤とした災害検知・減災システムの開発」を獲得した。平成28年度には、「東海地域を巨大地震災害から守る災害検知・防災情報共有システムの開発と実装」が、本学の「イノベーション協働研究プロジェクト」の一つに選択された。

平成27年度

- 「センシング技術を基盤とした、災害検知・減災システムの開発」成果報告会

平成28年度

- 熊本地震の調査、建物被害調査（5月）、地盤被害調査（6月）
- 熊本地震の被害調査報告会の開催（5月）
- 新城市の災害時孤立懸念集落の調査（8月）
- 豊橋市役所の地震被害想定（5月、豊橋市市民ギャラリーに展示）
- 豊橋市役所のIT強震計設置協議（6月、8月）設置（11月）
- 豊橋市中消防署の微動計測（6月）
- 熊本地震の被災マンションの調査（9月）

(4) その他の活動成果

平成23年度

- 「東日本大震災における被害調査データシート」策定

平成24年度

- 東海圏減災研究コンソーシアム設立

平成25年度

- 南海トラフ巨大地震対策中部ブロック協議会広域防災訓練
- 豊橋市役所市民ギャラリー、オープンキャンパス等でCARM活動紹介

平成26年度

- 南海トラフ巨大地震対策中部ブロック協議会広域防災訓練
- ものづくり博2014 in 東三河でCARM活動紹介
- 豊橋市役所市民ギャラリー、オープンキャンパス等でCARM活動紹介
- 「防災・減災に関する国際研究のための東京会議」ポスター発表

平成27年度

- 豊橋市役所市民ギャラリー、オープンキャンパス等でCARM活動紹介
- 巡視船からの三河港視察&セミナー

平成28年度

- 外国人向け体験型防災講座の実施

3. 今後の研究計画及び期待される効果

平成28年度より、センターは本学の技術科学イノベーション機構の下部組織に位置づけられた。これに合わせて、センター専任の特任教授、特任助教が配属となり、それまでの研究成果をさらに拡充・発展させる形で、防災に関わる研究と教育の双方の活動を精力的に行っている。

研究では、本学の「イノベーション協働研究プロジェクト」の1テーマとして、災害検知・防災情報システムの開発を行っており、東三河地域の自治体や企業等と連携して、防災拠点施設への加速度センサの設置とリアルタイム耐震診断システムの導入、地理空間情報を活用した災害対応能力の強化対策を進めている。将来的には、全国に先駆けた革新的なシステムになるものと期待される。

教育では、本学の「社会人向け実践教育プログラム」の1テーマとして、企業を対象とした防災人材育成事業を進めている。将来的には、カリキュラムを充実させ、職業実践力育成プログラム（BP）の一つとして認定されることが期待される。

この進捗状況報告書は、評価の後公表します。

※ センター更新希望の有無 有 ・ 無